

1 リサーチクエスション

伝える対象によって、雑誌の表紙デザインにどのような違いがあるのか？

2 このテーマを選んだ理由

本屋で様々な本の表紙を見たときに、対象の年代や性別によって使われている色や色の数に違いがあることに気が付きました。読者に手に取ってもらえるように、どのようなデザインの工夫がされているか気になったからです。

3 仮説

・伝えたい対象によって使われる色の数・組み合わせに違いがある

4 調査・研究の方法

- I 表紙をデザインする際のポイントについて調べる。
- II 対象年齢が違う雑誌の表紙の色・色の数を調べて比較する。
- III 上の2つから、どのような工夫がされているかをまとめる。

5 調査結果

表紙の内容 ①タイトル ②著者 ③写真・イラスト ④特集・内容 で構成される。

I ✨表紙デザインのポイント

- ・用途や対象者を明確にする
- ・文字のよみやすさを意識する
- ・印象に残るポイントを作る
- ・表紙と内容のイメージを合わせる
- ・店に置かれたときをイメージする

II ✨雑誌の表紙比較表



対象年齢が低い



対象年齢が高い

	色の数	対象	気づき
幼稚園 1月号	4	3・4・5・6歳	・ひらがなが多く、漢字はほとんど使われていない
7月号	5		
りぼん 1月号	3	小学生 ~中学生程度	・淡い色が多く使われている
7月号	5		
コロコロ 1月号	7	小学生	・キャラクターや文字で表紙が埋まっている
7月号	10		
seventeen 1月号	2	女子高校生	・少ない色数でまとめている ・モデルの写真がメイン
7月号	2		
sweet 1月号	4	20代 ~30代前半	・モデルの写真がメイン ・キャッチコピーが一言
7月号	4		
ミス 1月号	3	40代 ~50代前半	・モデルの写真がメイン
7・8月号	4		
素敵なあの 1月号	4	60代中心	・題名はほとんど黒か白
7月号	3		

6 気づき

対象年齢が低い(3歳~小学生程度) → ・色数が多い(平均6.5色) ・原色、補色を使用している
対象年齢が高い(10代後半~60代) → ・色数が少ない(平均3.4色) ・原色、補色が少ない



- ・小さい子供には色数を多く使い、目立つ色を使っている
→ より多くの子供の目につきやすくなり、手に取ってもらえる
- ・対象年齢が高くなると色数が少なく、目立つ色はあまり使われない
→ 見た目よりも全体的な雰囲気や内容とあっているかが重視される
- ・高校生~30代と40代~60代の色や色数は対象年齢が高くなってもほとんど変わらないのに、見た目の印象が全く違う

7 今後の展望

気づきにも書いたように、色や色数の条件は一緒でも受ける印象が違うものもある事が分かった。では、そのような違いを生み出しているのは何なのかを知りたいと思った。

8 引用文献・参考文献(website)

出来栄をぐっと良くする 表紙デザインの5つのポイント <https://well-direct.com/blog/archives/20210319/3604/>
2022. 9. 7

表紙参考: 幼稚園・りぼん・コロコロ・seventeen・sweet・ミス・素敵なあの